

新 年 ご 挨拶

会長 小 亀 輝 雄

明けましておめでとうございます。会員の皆様にはご壮健にて新春をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。我が国は国内外にさまざまな喫緊の問題を抱えながら新しい年を迎えました。先の衆議院議員選挙では3年余り続いた民主党政権が国民の期待に添えなかったことから圧勝した自民党に再び政権が戻りましたが、依然としてこの国の先行きは不透明で国民の不安は払拭されません。この国をどのような国にするのか長期の視野に立った政治を行って欲しいと思います。

さて、東村山稲門会会長の任期は原則4年と会則で決められており、任期の切れた私がさらに1年続投することには忸怩たる気持ちもありますし、ご批判も頂きました。しかし、やると決めた以上、この1年で少しでも体制を強くして次期会長に引き継ぎたいと考えております。そのためには会員皆様の活動参加とご支援が何よりも必要です。

東村山稲門会も設立17年目を迎えました。この間、会員皆様のお力で活発な活動をしてまいりましたが、いくつかの問題も抱えています。まず、第一は会員の高齢化と会員数の減少です。今年度は是非とも200人の大台に戻したいと思っておりますので、皆様のご協力を切にお願いいたします。ほかに「稲門会ニュース」の編集継承やホームページの改変作業、事務局体制の強化などがあります。要は会員の皆様ひとり一人が批評家や評論家になるのではなく、皆が協働で出来ることを遂行し、力を合わせて意義のある楽しい稲門会を作っていくという意識をもって頂くことが大切だと思います。

高齢化がますます進み、年齢を重ねるにつれて全うに生きていくことも大変なことが多くなりました。このような環境下でこの稲門会が、早稲田大学で学んだという「縁」と「絆」を大切に支え合い、楽しく、明るく、温かみのある会にできればと願っています。

母校早稲田大学では創立150周年を迎える20年後の大学のあるべき姿を見据え、早稲田 Vision 150を策定しました。また私たちの住んでいる東村山市も第4次総合計画で「10年後の東村山」の姿を展望しています。大学のVisionについては、この激動する世界の中で20年後のことを提言するのは意味がないという批判もあるようですが、渡部東村山市長が言われるように、あるべき姿を目指し一步一步進んでいくことに大きな意味があると思います。

早稲田大学の卒業生として、そして東村山市の住民として、私たちもささやかながらこの二つの組織の夢に少しでも貢献できれば、稲門会の存在も単なる仲良し倶楽部ではなく、多少の社会的意味を持つことが出来るのではないかと思います。

年頭に際し、皆様のご多幸をお祈りいたします。

会からのお知らせ

「新年会」

12月号のニュースでご案内済ですが、「新年会」は下記にて開催されます。

出席予定の皆様、よろしくお願いします。(返信ハガキ未済の方は、至急投函してしてください。)

記

日時 : 平成25年1月19日(土) 午後5時～午後7時30分
場所 : サンパルネ・コンベンションホール
会費 : 4,000円 (同伴者2,000円)
会員の皆様からの飲み物の差し入れを歓迎します。

新年会についての照会は、事務局長の當間昭治宛願います。 電話 391-6023

○ 平成25年2月 定例役員会

日時 : 2月9日(土) 14:00~16:30

場所 : 市民センター2F 第4会議室

17時から「丸藤」にてお誕生会があります。多くの皆さんでお祝いしたいと思います。是非ご参加ください。

○ 1月、2月生まれ合同お誕生会 (担当幹事 滝川桜子 ☎ 394-8187)
紅松容子

日時 : 2月9日(土) 17:00~19:00

場所 : 割烹「丸藤」久米川駅南口から徒歩1分

電話 042-395-5646

会費 : 3,000円

1月、2月生まれの方は、このお誕生会へご参加ください。お待ちしております。(2か月合同のお誕生会開催となりますため、1月お誕生の方もこの2月9日にお誕生会の実施となりますのでお間違えのないようご注意ください。)

☆ 尚、昨年は、1月に行われましたが、今年は、2月9日です。対象者(1月、2月生まれ)の方へは、1月の初めにはがきでご連絡をいたしますので、よろしくお願いいたします。

誕生月該当者の方で、下記されていない方は担当幹事までご連絡ください。また誕生月ではないが誕生月の方をご一緒にお祝いして下さる方のご参加も歓迎いたします。

☆ 1月度お誕生の方々(敬称略 19名)

飯塚輝夫、伊藤友己、大曾根文男、大西幸夫、小野 智、菊田 哲、木谷 肇、倉田哲也、河野憲一、小林俊治、佐久間 厚、迫田 実、佐野祐史、澤村信義、高橋鶴次郎、滝澤利久、成田豊太、藤本継男、堀田秀夫

☆ 2月度お誕生の方々(敬称略 15名)

岡田一郎、尾島敏雄、木村草彦、崎山裕子、塩見之一、高橋正夫、内藤 慎、長尾勝美、原田道昭、樋地正秀、福田 晃、細山和男、八木正晴、宮元祥史、吉澤雅子

○ 24年度会費納入のお願い

昨年11月24日開催の第17回定時総会で24年度の予算や活動計画が承認され、今年度の稲門会活動が本格的にスタートしました。

24年度(平成24年11月から25年10月)の年会費5,000円を、下記の方法で1月31日までにお振込みいただきますようお願いいたします。

① 郵便振替口座 同封しました専用の振込取扱票をご利用ください。

番号 00160-0-112250 名義 東村山稲門会

② 銀行普通預金口座

みずほ銀行久米川支店 普通預金口座 1876557 名義 早稲田大学東村山稲門会

なお、11月の総会に出席された会員の皆様には、会場にて納入いただいております。

○ 「人権の森」実現へ 全生園自治会 東村山市に寄付金

国立ハンセン病療養所・多磨全生園の入所者自治会(佐川修会長)は東村山市が行う「多磨全生園人権の森構想」の実現に役立ててほしいと、渡部尚市長に100万円を寄付した。渡部市長は「二度と人権侵害が行われないよう肝に銘じ、大切な緑を次の世代に残すのが我々の責務と考えている。都民共有の財産として守って行く機運を高めていきたい」と答えた。(読売新聞)

訃報

当会会員齊藤充美さん(S39・法学部)がお亡くなりになり、12月6・7日に通夜・葬儀が行われたようですが、ポストマンの内藤さんと小菅さんにご自宅を訪問して頂きましたが、すでにお住まいでないようでご遺族と連絡がとれない状況になっています。会員の皆様の中でご遺族をご存じの方がおられましたら事務局長までご連絡ください。

○ 退 会

斉藤充美さん（萩山町） ご逝去のため

○ 会員名簿の訂正

住所変更 青柳真一 新住所 〒189-0014 東村山市本町4-12-43-2C
電話番号は変更なし

『早稲田大学商議員会フォーラム』報告

記

1. 日時 2012年12月8日（土）14:00～17:15
2. 場所 早稲田大学 大隈講堂及びリーガロイヤルホテル東京
3. 内容 鎌田 薫総長の挨拶に続き、橋本周司常任理事より『WASEDA VISION150』について

全体概要と今後の方針を力強く話された。次に今回は、『政治経済学部・政治経済学術院大学創立150周年（2032年）に向けて』と題して、政治経済学術院教授3名の先生から詳細にグローバル化・情報化の発展した現代国際社会において、次世代リーダー育成を目指す具体的政策提言や実施状況等について意欲ある将来ビジョンが話された。

佐藤 正志 政治経済学術院長：

《グローバル社会の未来を切り拓く自律的な次世代の創出》

梅森 直之 副学術院長：《政治経済学術院の国際化戦略～過去・現在・未来～》

川岸 令和 政治経済学部教務主任：《政治経済学部英語学位プログラム EDESSA=English-based Degree Studies September Admission Programについて》

世界へ貢献する早稲田大学・アジアのリーディングユニバーシティ頑張れ！加油（jia you）！

池田 孝（S40政経）記



“「山はみんなの宝」憲章の制定運動”

上 幸雄（S47教育）

昨年「山はみんなの宝」憲章の制定を目指し、多くの方々から賛同署名を集めて、来年2月には大会を開き憲章を正式に制定することにしている。この運動を始めたきっかけは、2010年6月の事業仕分けにより、環境省の「山小屋トイレ整備補助事業」に『廃止』の判定が下されたことだった。

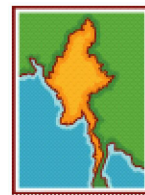
この事業は、民間や自治体が設置する山小屋のトイレ改善に対し、国が2分の1補助するもので、これまでの10年間で全国100カ所の山小屋トイレが整備された。しかし、整備すべき山小屋トイレは全国にまだ100はあるといわれている。そのため、『廃止』の判定直後から、山小屋、山岳団体、市民活動団体、地方自治体、旅行業者など山岳関係者の間から、『廃止』撤回を求める声が起り、「山はみんなの宝」運動につながった。同年11月の「全国大会」では300人の会場に立ち見が出る盛況となった。一連の活動が実り平成23年度予算では「山小屋トイレ整備補助」が何とか復活したが、10年の期限付き、入山者の受益者負担などの条件がついた。

これらの経緯から、山の自然保護と適正利用に向けて、[私たちの責務][利用者負担][自己責任][環境教育][入山者の行動指針]からなる「山はみんなの宝」憲章を制定するため、賛同の輪を広げていく活動を展開している。幸い、日本山岳協会、日本山岳会、HAT-J、ボーイスカウト日本連盟、日本エコツーリズム協会、日本野鳥の会などの団体、そして、山と溪谷、BEEPAL、ガルヴィなどの雑誌、モンベルなどアウトドアメーカー等々に「賛同呼びかけ人」となっている。ことに現在ボーイスカウト日本連盟理事長である元総長奥島孝康先生には、この運動の代表として常に先頭に立っていただいている。また、事務局は私が主宰するNPO法人山のECHOが担っている。

この活動はまさに自然理解への第一歩であり、究極でもあり、この輪がより大きくなり、日本の自然が守られ、適正に利用されるようになることを願っている。皆さまのご理解を賜り、賛同のご署名をいただければ幸いです。

憲章の詳しい内容およびご署名については、<http://yama-takara.jimdo.com/>にアクセスいただきますようお願いいたします。

第80回雑学講座報告(映画会)



「ビルマの豎琴」

平成24年12月15日 15:00～17:30

東村山サンパルネ コンベンションホール



一昨年から 雑学講座に 映画会を催し、「若草物語」「二十四の瞳」に続き 今回「ビルマの豎琴」を上映した。 回を重ねる毎に参加者が増え、今回は 約120名を数え、その半数以上が 市民の方々であった。

「ビルマの豎琴」は 昭和31年に、そして 29年後の昭和60年に同じ市川崑監督、同じ和田夏十脚本でリメイクされている。 今回は 昭和31年(56年前)制作の 安井昌二、三国連太郎 主演の初版を鑑賞した。(2時間16分)

偶然だが、今年の「二十四の瞳」と「ビルマの豎琴」は終戦後10年を経た、ほぼ同時期に制作されている。 もはや戦後ではない！ と日本が右上がりの発展に向かい進み始め、あの悲惨な戦争を、日本人がやっと歴史として見る事が出来る様になった時期の、冷静な反戦映画である。

両映画ともに 叙情歌が主役で、我々日本人の心を揺さぶる。 ヨーロッパ戦線でのクリスマスイブに、敵、味方の塹壕から 互いに讃美歌の歌声が聞こえてきた。 同じ人間が同じ文化を持ち、同じ神を信仰している人間同士が 何故に殺し合わなければならないのか！！ この逸話を劇中「埴生の宿」を唄い合わせるイギリス兵と日本兵のシーンに重ね合わせた。

豎琴(サウン・ガウ)が この映画で大きな役割を果たしている。 日常あまり聞く機会がないが、このシンプルな楽器の音色が、物語を一層の感動の境地に誘ってくれた。

又 インコも名優であった。

この映画を、先の戦争で父を、子を 戦地で失った方々が観られたら、そのお気持ちはいかばかりか。 水島上等兵に我々も感動と同時に、心より手を合わせ感謝したい。

ラストシーンの 船上での復員兵たちの明るく楽しい様子と、裸足でビルマをさまよい、そこで命尽き果てた同胞の骨を拾い供養する水島の後ろ姿。 明るい熱帯の日差しの中に見るその対照的な姿は あまりにも印象的であった。

孤独な僧を描くのに、ビルマほどふさわしい場所はない。ビルマの土はあかい 岩もまたあかい。



福田昇七 (S 3 6 理工院) 記

同好会だより

当会会員の方は、いずれの同好会にも自由に参加できます。

ウォーキングの会



世話人 高橋 正夫 TEL 309-3407
阿部 茂 332-0298

我らが母校、早稲田大学界隈を歩きます。
箱根山、穴八幡、甘泉園等、青春時代の思い出の地をゆっくりと巡ります。
学校にご無沙汰している人はあまりの変貌にびっくりしたり、昔と変わっていないことに懐かしさを覚えたり、楽しい一日になると思います。(かつて知った場所なので、「是非・・・に寄ってみたい」等あれば、時間の許す限り対応いたします。)

日時 : 1月27日(日)

集合場所と時間 : 東村山駅、西武新宿線上り線ホームに9時集合(9時10分発急行)

コース : 高田馬場駅 → 理工学部 → 箱根山 → 文学部 → 穴八幡 → 本部構内 → 芭蕉庵 → 新江戸川公園 → 水稻荷 → 甘泉園 → 高田馬場駅(12時30分頃?)

その他 : 9時10分東村山発、9時38分高田馬場着の予定です。

到着時刻頃にビッグボックス前でお待ちいただいても構いません。

高田馬場駅で、希望者で昼食を取りたいと思います。

空模様が怪しい場合は朝8時までに阿部までご連絡、ご確認ください。

カラオケ同好会

世話人 内藤 慎 TEL 393-5071



12月例会は忘年会を兼ね、1年の会を締め括る採点による優勝大会を12月8日開催しました。

参加は井垣 石塚 高鷲 南湖 内藤の常連の各氏。飛び入りの高橋阿部 山本の各氏、更に見学の幸田氏の9名と賑やかな一夜でした。課題曲の北国の春を次々に熱を込め歌い部屋中大興奮、大いに盛りあがりしました。自由曲は各自の得意曲を歌い込み大興奮、大いに愉しみました。

《成績》

優勝：井垣 2位：高鷲 3位：内藤

それぞれ賞金を、参加者全員に参加賞を受け来年の健闘を目指して散会。

〈今後の予定〉

1月12日(土) 19時より カラオケランド ズー

2月 9日(土) 同上

パソコン同好会

世話人 小菅 宏 TEL 391-0219
福田 昇七 391-9726



「第2回ワード勉強会」が12月8日(土)、12月22日(土)に行われました。新規参加者2名を迎えて2クラス：23名(内講師5名)で賑やかに楽しみながら勉強しています。また22日(土)の相談会には4名の方がパソコンの相談に参加されました。

前回ご案内した「恥をかかないメールの作法」(仮称)の内容は一般的な「メールの作法」以外に「送信できない」、「受信できない」、「添付ファイルが開けない」、「差出人名と件名ですべてを語る」、「一斉送信」、「受信メールの仕分け」、「うっかり CC/BCC が身を滅ぼす」等の対策を予定しています。日程は決まっていますが、気になる方はお問い合わせください。

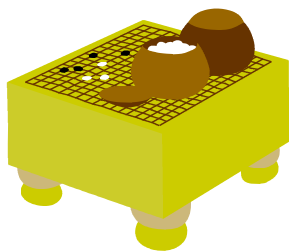
当面の日程は、「同好会等短期予定表」をご確認ください。

(小菅 記)

囲碁同好会

世話人 福田 晃
高 鷲 近

TEL 394-0593
394-2336



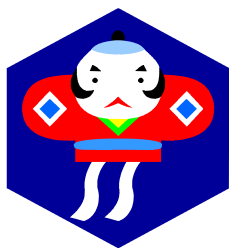
●12月15日(土)、いつもの市民センター別館第6会議室で「囲碁例会」が開催されました。当日は、雑学講座(映画会)と日程が重なったため、参加者は7名といつもより少なかったが、それだけ密度の濃い熱戦が展開された。

<参加者/敬称略>一色・塩田・高橋(鶴)・高鷲・野村・福田(晃)・堀田
○次回の「例会」は2月16日(土)、「第26回東村山稲門会囲碁大会」は4月20日(土)を予定しています。いずれもまだ予約ができませんので、詳細につきましては次号の『稲門会ニュース』でお知らせします。

(高鷲 記)

俳句同好会 (稲酔会)

世話人 井垣 和太 TEL 04-2924-2934



第65回「稲酔会」俳句会は、12月22日(土)午後2時から「丸藤」で開催しました。

10月には元気な姿を見せていた小永井哲哉さんが急逝され、用意された座布団が1枚余る淋しさは隠せませんでした。参加者6名(稲雀、麦穂、瑞雄、愼、北窓、波雲)に加え、投句参加4名(三郎、和夫、糸行、竜湖)計10名の50句を前に、いつもの活発な互選、合評が行われました。

兼題は「年」年末、「年の暮」など季語を使う場合もあれば、「年」という字を作品中に詠み込んだ句も有り楽しい鑑賞が出来ました。

6人の互選の結果、高点句は、

時雨忌の夜は一人で本の旅 瑞 雄
アメ横に年越しの競り囀る 波 雲

が同点で並びました。

句会のあとは、忘年懇親会で「丸藤」2階はおおいに盛り上がり、次回第66回句会の2月23日(土)に元気で集うことを約して、散会しました。

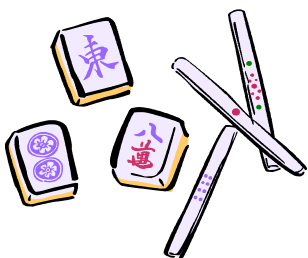
第66回の兼題は「囀り」(さえずり)です・・・。

(稲雀 記)

麻雀同好会

世話人 小野 智
松 永 常 尚

TEL 391-9523
332-5621



去る23日(日)第59回大会を麻雀サロン「園」にて、参加者12名(3卓)、定刻13時より忘年大会として、各人來年の雀運を賭して開始しました。小亀会長差し入れの満貫賞を狙って、2回戦からはバールの勢いも得て、忘年大会らしく各人氣合いがこもって来ましたが、成績結果は久しぶりに當間氏が第3回目(第13回、第37回)の優勝を勝ち取りました。当日の参加者は赤荻、阿部、池田、小野、小亀、塩田、田口、土橋、中川、松永、三宅の各氏でした。

尚、大会に先立ち常任世話人の引退を発表しました。小野(H9年3月より)松永(H16年12月より)は第59回大会を持って勇退することになりました。H25年第60回より阿部、池田両氏が新世話人としての会の運営を図ってもらうことに決定しました。

マンネリを打破して、新風を吹き込み会員増強と会の発展に資することを期待します。

大会終了後、希望者(9名)のみ「丸藤」にて初めに樽酒「賀茂鶴」で杯を挙げて盛大に忘年懇親会が盛り上がりました。

25年2月に行う合同麻雀大会(東村山、国分寺、小平)の出場者を今回の得点順位者から選出(6~8名)しました。

第60回大会は25年3月ですが、決定日時は新常任世話人より発表されることになりました。

(松永 記)

テニス同好会

世話人 田島 隆夫 TEL 396-7676



12月の例会は、12月9日（日）13:00～15:00 久米川コート4番にて行われました。

天候は晴、小菅さん、野田夫妻、福田（昇）さんと田島の5名が参加しました。

最近恒例になった野田さん指導の準備体操で、寒さで固まった身体をリフレッシュし、さらに、ストロークやサーブの練習をしました。

試合は人数が少なかったので、出番が多く良い練習になりました。ただし、寒い時期なので、血圧等の体調も考慮しなければならいようです。

野田夫人から郷里の林檎の差入れがあり、美味しく頂きました。



小永井哲哉さんのこと

丸本聡明（S31政経）

この文を記すにあたり、畏友小永井哲哉氏を哲哉と呼ぶことをお許しいただきたい。

初めて哲哉と出会ったのは5年前、シルバー人材センターの忘年会だった。たまたま席が隣になって、話を進めるうちに早稲田の出身であることが判った。しかも私より3歳年下であり、教育学部だというから、キャンパスですれ違ったこともある筈だと思った。当時私の学部は3号館で教育学部は2号館、向かい合っていたからだ。さらに会話がはずむと、彼は学生るとき、俳句研究会にいて、私のクラスメート大橋巨泉とも面識があると言う。縁とは不思議なもので、一度結びつくと二重三重に絡まっていく。私は嬉しくなって、ただちに東村山稲門会に入るよう奨めた。素直な彼は、翌年になって入会し、俳句同好会である「稲酔」にも籍を置くことになった。

そのうちに、彼の人柄の素晴らしさが判ってきた。付き合いが多く、回りから慕われていて、なかなか忙しそうだった。それに、旅行好きで、家族と一緒に国内、海外と出かけており、会うときは旅の話を楽しそうに聞かせてくれた。

そのような交流のなかで、彼が大切にしていたのは「咸臨丸」に関する集いだった。咸臨丸とは幕末期に江戸幕府が所有していた620トンの小さな軍艦である。1860年、勝海舟が艦長を務めて、初の遣米使節団を乗せ、浦賀から43日かけてサンフランシスコに航海した。その一行の中に、福沢諭吉やジョン万次郎とともに、彼の曾祖父がいたのだ。現在も「咸臨丸子孫の会」があって、彼はその中での重要なメンバーだった。

哲哉と私の交流は、わずか5年だったが、彼の穏やかな雰囲気の中に、武士の真っ当な末裔の持つ毅然とした意志と気品を私は感じていた。彼には弟のような親しみを覚えつつも、年のとり方を彼から見習っていた。

この秋、これが最後かとも思いつつ京に旅した。帰ってきて、留守電のボタンを押した途端、驚愕した。体中が震えた。内容は哲哉の急逝を告げるものだった。「何だ、これは！」私は思わず叫んでいた。「いったい何だ！」

心筋梗塞だというが、それなら順序がある筈だった。4年前、私は緊急入院して助かり、冠動脈にステントを入れながら今も生きている。昨年、妻を亡くしてからは、いつでもと思っているが。そして、妻が亡くなったとき、自分の体験を語って、慰めてくれたのは彼だった。あのとき、どんなに彼に感謝したことか。思いやりをもって生きる彼のような存在はこの世になくてはならないのだ。その彼が忽然と去ってしまう。私はこの矛盾に為す術を知らぬ自分が情けなかった。

思い出すと、お互いに桜の花が好きで、名所や名木の話をしたものだった。まだ行っていない稲門会の多摩湖の花見も、来年はふたりで参加する筈だったが、今はそれもない。しかし、私の心にはいつまでも哲哉という優しく気品ある花が咲き続けるだろう。

11月21日、彼のお通夜のあと、稲酔句会の会場である小料理屋「丸藤」で、稲門会の人たちとお清めをし、故人の思い出を語り合った。寒い夜だった。家路を辿りながら空を見た。晴れていて、半月がくっきり浮かんでいた。突然、彼の句を思い出した。

ポケットに喪の塩のあり寒の月 哲哉

合掌

同好会等 短期予定表										
同好会・行事	1月					2月				
	日	曜	時間	場所	備考	日	曜	時間	場所	備考
ウォーキングの会	27	日	9:00	東村山駅上り線ホーム		—	—	—	—	
テニス同好会	20	日	9:00～11:00	運動公園A		2	土	11:00～13:00	運動公園A	
	27	日	9:00～11:00	運動公園A	予備日	11	祝	13:00～15:00	久米川コート3	予備日
囲碁同好会	—	—	—	—		16	土	13:00～	市民センター別館	
カラオケ同好会	12	土	19:10～	カラオケランドズー		9	土	19:10～	カラオケランドズー	
園芸の会	25	金	14:30～16:30	スポーツセンター		—	—	—	—	
麻雀同好会	—	—	—	—		—	—	—	—	
音楽同好会	—	—	—	—		—	—	—	—	
俳句同好会	—	—	—	—		23	土	14:00～	「丸藤」2階	
ゴルフ同好会	—	—	—	—		—	—	—	—	
早稲田スポーツ応援の会	—	—	—	—		—	—	—	—	
パソコン同好会	12	土	10:00～12:00	シルバー人材センター	勉強会	9	土	10:00～12:00	シルバー人材センター	勉強会
	26	土	13:00～15:00	シルバー人材センター	勉強会	23	土	13:00～15:00	シルバー人材センター	勉強会
	26	土	15:00～16:00	シルバー人材センター	相談会	23	土	15:00～16:00	シルバー人材センター	相談会
雑学講座	—	—	—	—		—	—	—	—	
— : 対象月に開催予定無し * : ニュース編集時点で未定。詳細は世話人にお問合せ下さい。										

編集局だより

○「一富士二鷹三茄子」は初夢に見ると縁起が良いと言われていますが、残念ながら初夢に見た記憶はありません。ただ私は静岡県の出身なので、山といえはやはり富士山で特に雪をかぶった冬の富士山を見るのは好きです。関東でも富士見町や富士見台などの地名があるように色々なところで富士山を見ることができますし、もちろん東村山でも見えます。で、最近の私のお気に入りには灯台もと暗しと言おうか住んでいるマンションの10階から見る富士山です。おものに朝、4階の自分の部屋から、時には1階から階段を上って見に行きます。澄んだ空気の中で見ていると、とても気分が良くなります。お正月に帰省した折り、新幹線で隣に座っていた人が少し雲がかかって『あたまを雲の上に出し..』とまさに歌の通りの富士山の姿を写真に撮っていたのもすごく領けました。

○次号の原稿締め切りは1月25日（金）です。よろしく願いいたします。（中村）

fax: 042-391-0581 email: mym-naka@u01.gate01.com

俳壇

風間 和夫
駆け込んで猶ほでもぐる炬燵かな
時雨るるや一時の間の喫茶店
菊田 一平
御神馬の餌は煮大豆雪来るか
幸田 瑞雄
火鉢に手かざし祭の神馬守
時雨忌の夜は静かに紀行読む
小亀 輝雄
半世紀ぶりの双柿舎石路の花
夫婦とは絶えざる会話去年今年
亡き人のものの減りゆく年の暮
病み多き年を越すそば硬く打つ
高部 糸行
場をつなぐ鍋焼鰻鮎杯休め
内藤 慎
健在の賀状届きて心和ぐ
君乗るや冬晴れの雲ぽっかりと
丸本 北窓
書き残すページちらほら年惜しむ
数へ日や白衣のひとの走りたる
八木 竜湖
年越の闇をつき刺す風の音
年越の妻の臉を見てをりぬ
山下 波雲
アメ横に年越しの競り囃るる
年用意いつか遺書めく日記かな
栗島 三郎
哲哉近き句座の狹まる年の暮
一匹の蠅に乱さる冬の卓
井垣 稻雀
独り居の灯り洩れ来る冬構
雑踏に揉まれて抜ける年の市
出田 麦穂
歳晩や独居の翁独り言つ
あらためて五年連続日記買ふ